

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

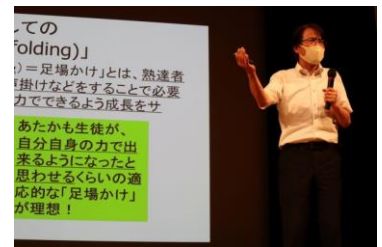
E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

第17回伊賀市教育研究集会

「ICTの効果的な活用による主体的・対話的で深い学びの創造」

【講師】 東京学芸大学 森本 康彦先生

8月3日(水)、3年ぶりに伊賀市文化会館にて第17回伊賀市教育研究集会を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から対面とオンラインを併用した形での開催となりました。講師に東京学芸大学の森本康彦先生をお迎えし、「ICTの効果的な活用による主体的・対話的で深い学びの創造」と題してご講演いただきました。



初めに ICT の活用に関わって、「ICT を使うことが目的ではなく、ICT は手段であり、学びに彩りを加えることができるものであること。」「学びそのものを促進させるものであること。」という話があり、ICT を使うことが目的とならないようにすることが大切であることを確認できました。

第1部の話では、学びとは「知識を構築していくこと」であり、そのためにいかに気づかせるか、気づきを与えるかが大切であることや獲得した知識を使って、みんなで問題を解決していくことが大切であることを学びました。この事は、学校で取り組む「強み」であることを改めて感じることができました。



第2部の話では、主体的・対話的で深い学びを創っていくために習得・活用・探求のプロセスが大切であり、教科横断的に学ぶことやカリキュラムマネジメントも重要になってくることが分かりました。また、何よりも子どもたちに主体性を育むことを目的として実践していくこと、そのためには教師による適切な学習支援も大切であることを学びました。

アンケートより【一部抜粋】

・「学ぶ」とは自ら考え「気づく」ことだとおっしゃったことが印象に残りました。子どもを主体として、多くの仕掛けをし、横断的な授業を創造していくことが大切であることがよく分かりました。これからも「普通の授業 with ICT」を心がけ、よりよい授業づくりをめざして日々研修を積み重ねていきたいと思えます。(小)

・ICTを使うことが目的ではなく、子どもたちの学びをどのように深いものにしていくのか、どのように探求させることが大切だということを改めて感じることができました。そのためにどんな教材を用意し、どのタイミングで提示するかをよく吟味することが子ども主役の授業づくりにつながっていくと感じました。学んだことを2学期からの実践に活かしていきたいです。(中)

・「学ぶ」とは気づくこと、定着とは自らの言葉で「説明できる」ようになることという話に共感しました。子どもの自主性ややる気を引き出すには「気づき」を持たせる手立てが必要であり、自らの言葉で「説明する」には多様な方法が必要です。ICTはそのような手立てや方法を考える上で有効な手段であることが分かりました。(小)